

写真１　正門

近隣史跡の紹介

元赤坂の迎賓館赤坂離宮は、明治42年に東宮御所として、建築家片山東熊の総指揮の下に建てられた、日本における唯一のネオ・バロック様式の洋風宮殿建築です。迎賓館の建物は赤坂離宮と呼ばれ、戦後は、国立国会図書館、東京オリンピック組織委員会などに利用された時期もありました。

そして、昭和49年に国賓等を迎える国の接遇施設の迎賓館赤坂離宮となり、昨年40周年を迎えました。創建当時の建造物の本館、正門や主庭噴水池等は、国宝に指定（平成21年）されています。

毎年、特別行事として秋期に正門が開門され（写真1）、前庭の一般公開が行われます。その際には、庭園の黒松や噴水、本館の緑青の屋根、花崗岩の外壁に施された美しい装飾を間近で見ることができ（写真2）、たくさんの人々が訪れます。

参考文献
迎賓館赤坂離宮資料





写真２　本館北面